

認知症の症状とケアの流れ

認知症は少しずつ進行し、症状が変化してきます。家族や周囲が認知症を理解し、進行に合わせて対応していくことが大切です。

(原因疾患や身体状況によって経過が異なりますので、この通り経過を辿る訳ではありませんが、今後の介護の目安としてください)

あれ…? 【もの忘れが気になる（発症する）時期】

本人

何を話そうとしていたっけ？

人の名前や物の名前が思い出せない

- もの忘れが見られ人の名前や物の名前が思い出せない
- 会話の中で「あれ」「それ」「あの入」などの代名詞が増える
- 積極性がなくなり人との付き合いや趣味・習い事などから足が遠のく、理由をつけて休もうとする

軽度認知障害 (MCI) とは 認知症の前段階で、軽い記憶障害があっても大きな支障なく日常生活を送れる状態です。この段階で発見して適切に対処すれば、特にアルツハイマー型認知症への移行を予防、または先送りできるといわれています。ちょっとした異常のサインを見逃さないようにしましょう。

家族

- 規則正しい生活を送り、家庭内で役割をもったり、地域行事やボランティアなどの社会参加をする
- 「おかしい」「いつもと違う」と思ったときには早めにかかりつけ医や地域包括支援センターに相談する

本人の不安を和らげる

本人には次第にできないことが増えて行くといういらだちや不安があります。そんな気持ちを穏やかに保てるように、家族など周囲の人が上手にサポートしましょう。

地域との交流・介護予防など

- 特定健診
- すこやか健診
- ぎふさわやか口腔健診
- もの忘れ相談
- こころの相談
- シニアクラブ
- 介護予防教室
- 介護予防体操
- 地域交流サロン
- 認知症カフェ（良良カフェ）
- シルバー人材センター
- 病院（もの忘れ外来、精神科、認知症疾患医療センター）など

【見守りがあれば日常生活は自立できる】

どこに置いたかしら？

火は消したかな？

- 集合の時間を間違えたり、約束したことを忘れてりする
- 同じことを何度も聞く
- 今まで出来ていた料理や掃除などの家事の段取りが悪くなる
- 火の消し忘れがある
- 薬を飲み忘れる
- 置いた場所がわからなくなる
- 同じ物を何度も買ってしまふ

本人の気持ち… 物の忘れによる失敗や、今まで出来ていたことを上手く出来なくなることが多くなり、不安感やイライラが多くなってくる

可能であれば本人も交えて家族間で話し合っておく

- 今後の金銭管理や財産管理について
- どのような終末期を迎えるか など

見守る人を増やす

家族だけで支えるのではなく、民生委員や町内会の知人や友人などにも理解を求め、日常生活の中で積極的に見守ってくれる周囲の人の数を増やしましょう。

悪質商法などから守る

判断能力の衰えなどにつけ込まれて、詐欺や悪質商法などの被害にあう危険があります。成年後見制度を利用するなどして、被害を防ぎましょう。

介護保険サービス・高齢者福祉サービスなどを活用

在宅での暮らしを支える

- 家事サポートサービス
- 配食見守りサービス（独り暮らし等）
- 消費生活センター
- 住宅改修
- 福祉用具貸与・購入 など

在宅での活用

- 訪問看護
- 訪問リハビリ
- 訪問介護（ヘルパー）
- 居宅療養管理指導（医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士など）
- ショートステイ

通いでの活用

- デイサービス
- 認知症対応型デイサービス
- 小規模多機能型居宅介護 など

家族へのサポート

- 認知症カフェ（良良カフェ）

【日常生活に手助けや介護が必要】

道がわからなくなってしまった

触らないでくれ

- たびたび道に迷う
- 落ち着きがなくなる
- 季節にあった服が選べない
- 事実とは違う話をする
- トイレの場所を間違えて排泄する
- 買い物やお金の管理にミスが目立つ
- 家電がうまく扱えない
- すぐに怒る
- 勘違いや誤解が多くなる
- 着替えや入浴などを嫌がる
- 家族や近隣とのトラブルが増える

本人の気持ち… 自分をもっと、よく見てほしい

- 接し方や介護、医療について勉強しておく
- 本人の役割を全てとりあげず、出来ることはしてもらう
- 本人が失敗しない環境づくりに配慮する

住まいの環境を整える

生活機能が衰えると、家庭内での事故も増えやすくなります。事故を防止し、介護にも役立つような介護保険による住宅改修を行い、生活環境を整えましょう。

見守りの体制を充実させる

通い慣れているはずの道などでも迷ってしまう危険があります。GPS機能付きの携帯電話をもたせるなど、いざというときに備えた見守りの体制を充実させましょう。

施設

- 特別養護老人ホーム
- 老人保健施設
- 介護付き有料老人ホーム
- グループホーム
- 介護医療院

病院

- もの忘れ外来
- 精神科
- 認知症疾患医療センター など

【常に手助けが必要】

おいしいな

起きれるかな

- 歩行が不安定になる
- 着替えの動作ができない
- 声かけや介護を拒む
- 意思疎通が難しくなる
- 尿意や便意を感じにくくなる
- 飲み込みが悪くなり、食事に介助が必要となる
- 表情が乏しくなり言葉が減る
- 古い記憶も失う
- 言葉が理解できなくなる
- ほぼ寝たきりの状態となる

本人の気持ち… 自分らしさを尊重してほしい

介護する家族の健康・休息も大切に

- 介護保険サービスなどを上手に利用する
- 病気が重くなりやすいので医療機関とこまめなやり取りを心がける
- どのような最期を迎えるかできるだけ本人の視点に立って家族間で話し合っておく
- 介護者負担が増えるため困ったことがあれば抱え込まず、早めに担当ケアマネジャーや地域包括支援センターに相談する

人間はこの世に生まれたときから、一日一日歳を重ね、やがて誰にでも老いや死が訪れます。

医師などと相談して、残された能力に応じたケアを行い、本人が望む人生の最期となるようサポートをしてください。

この時期は、たとえ体の状態は衰えたとしても、心の状態はとても穏やかです。意思疎通が出来なくても、耳は聞こえている場合もあり、名前を呼んだり、好きな音楽を流したりし、コミュニケーションをとってください。

皮膚の感触が残っている事もあります。手や足をさすってあげたり、そばにいてあげたりすることが、不安を和らげ安心な気持ちにつながります。

